芦安小学校前期自己評価書

■学校教育目標

「一人一人の学びを大切にして、「生きる力」を身に付ける芦安っ子」
～かしこい子、がんばる子、やさしい子、きもちがあかるい子～

■評価方法

学校評価の方法として、「Ⅰ．学校運営・学校経営」、「Ⅱ．学習指導」、「Ⅲ．生徒指導」、「Ⅳ．保護者・地域との連携」、「Ⅴ．学校の特色ある取組」の５領域を設定し、取り組みの状況・結果を把握する方法としてアンケート（教職員・児童）を行った。質問に対しての回答選択肢は基本的に４段階である。

Ａ：そう思う
Ｂ：ややそう思う
Ｃ：ややそう思わない
Ｄ：そう思わない

このうちＡとＢは肯定的なプラス評価、ＣとＤは否定的なマイナス評価である。Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄのそれぞれの選択肢を点数化し、Ａ＝４、Ｂ＝３、Ｃ＝２、Ｄ＝１として集計し、回答者数で割って平均点をもとめた。

・全体にプラス評価（Ａ・Ｂ）が多ければ、平均点は３点以上になり、４点に近づいていく。
・全体にマイナス評価（Ｃ・Ｄ）が多ければ、平均点は２点以下となり、１点に近づいていく。

教職員数ならびに児童数ともに、少ない中でのアンケートであったが、評価項目の中には、２学期以降共通理解して取り組む必要性があることが明らかになってきている。

■全体評価

アンケート調査の結果から、児童・教職員あわせ、ほとんどの項目でプラス評価の傾向となっている。芦安小学校の教育活動が、保護者や地域の理解と協力を得ながら、効果あるものとなっておこなわれていることや、児童が充実感と向上心を持って学校生活を送っていることが、全体の傾向として見てとれる。

小規模校ということもあってか、教職員と児童のコミュニケーションは図れている。児童のアンケートの結果を見ても、多くの児童が、「学校は楽しい」（評価３．７）、「先生は、声をかけてくれたり、話をしてくれる」（評価３．６）、「授業は楽しい」（評価３．４）と肯定的な回答をしている。また、教職員の自己評価アンケートにおいても、「児童一人ひとりとコミュニケーションを図り、正しい児童理解や共感的理解に努めている」（評価４．０）と非常に高い評価であった。児童との良好な関係は、教育の原点であり、非常に大切なことである。少人数の利点を生かした教育活動

と、地域連携を柱とした「芦安郷育」をより一層推進していきたいと考える。

■領域ごとの評価

Ⅰ　学校運営・学校経営

学校運営・学校経営については、すべての項目で高評価である。このことは、多くの教職員が学校教育目標達成に向けて、学校経営方針に基づいた多様な取組をＰＤＣＡサイクルを意識して実践していることを示しているといえる。さらに、３．の項目からは、本校の教職員がチームとなって「協働」する大切さを理解し、職員間の連携を意識しながら、「報・連・相・確」の実践等一人ひとりが取り組んでいることもわかる。今後は、さらに連携・協働を進めることによって、同僚性を高め、学校の活性化を図っていくようにしたい。また、７．８．については、特に評価が高く、校務分掌が適切に機能し、諸問題に対しても学校全体で適切に対応する体制ができているといえる。危機管理については、防災訓練を定期的に行っているため、非常時の対応について理解されているという意見もあるが、大きな災害等の危険性も高い地域なので、危機管理マニュアルなどを用いて、今以上に取り組んでいく必要性を感じている。

Ⅱ　学習指導

学習指導についても、すべての項目で高い評価である。学力向上は、どの学校においても大きな課題である。本校においては、１０．の授業のめあてを示すことや、１１．の基礎基本の確実な定着については、特に評価が高く、山梨スタンダードを意識した授業づくりへ取り組んでいることがわかる。また、１４．の家庭学習についても、授業内容と結び付け、授業内容の定着を図ろうと取り組んでいることが示された。一方、５．の校内研へのかかわりについての評価でもわかるよう、校内研のテーマ『生き生きと自己表現ができる児童の育成』に向けて、校内研に主体的に関わっているものの、１２．言語活動を効果的に取り入れた指導や１３．の児童が目標を達成しているかを確かめる「振り返り」の過程を設けていることへの評価が、高いとはいえ、他に比べると低めである。話合い、発表等の言語活動の充実や振り返りの過程をより多く取り入れ、できる授業・わかる授業を実践し、校内研のテーマである「自己表現ができる児童の育成」につなげていきたい。

Ⅲ　生徒指導

生徒指導においても、ほぼすべての項目で高い評価である。１５～１８．の項目は特に評価が高く、教職員が児童一人ひとりとのコミュニケーションを大切にしながら児童理解、共感的理解に努めていること、いじめや不登校等の問題行動に対しても早期発見・早期対応を行っていることがわかる。また、そのために基本的習慣の確立や、学級活動や児童会活動等自主的・自発的な活動を促し、学校や学級が心の居場所となるような指導を心がけていることが示されている。一方、１９．道徳の時間においての評価からわかるように、少人数ゆえに話合いが深まらなかったり、自分への振り返りの指導が難しいためか、評価が低めである。主として、自分自身

に関することを重点的に、２学期以降も道徳の時間の充実に努めていきたい。

Ⅳ　保護者・地域との連携

保護者・地域との連携においても、どの項目も高い評価である。２０．２１．の情報提供や情報公開、情報収集については特に評価が高く、教職員が意欲的に、学級通信等を作成し、情報を発信していることがわかる。また、保護者や地域の願いや要望を聞く機会も工夫し、情報収集にも努めている。さらに、２３．における児童の安全確保にも積極的に関わっている。今後、２２．のＰＴＡ活動の推進のため、さらに意欲的に関われるような工夫を増やしていきたいと考える。

Ⅴ　学校の特色ある取組

学校の特色ある取組においても、すべての項目で高い評価である。小中９年間を見通した英会話教育の推進や、ユネスコクール加盟校として、自然体験やＥＳＤへの取り組みを意識して進めていることがうかがえる。また、朝活動で一輪車等の指導をするなかで、基礎体力と運動能力の向上も行っている。２９．の校舎の安全管理や保健指導についても、担当を中心に適切な指導や管理がされている結果である。３０．の図書館教育・読書活動については、朝読書の時間や読み聞かせをするなど、子どもたちの読書への興味関心をもたせる工夫をこらしている。

■児童アンケートの結果

Ⅰ　学校全般について

１．「学校は楽しいですか。」の質問に全員が肯定的な回答をしている。４．の先生との関係もほぼ良好であるといえる。一方、３．の「困ったときに相談ができる友達がいますか。」という質問に対して、８名の児童があまりいない、いないと回答している。学級活動や日常的な休み時間の遊び、さらには運動会などの大きな行事等への取組を通して、今以上に子供同士の「絆づくり」ができるよう、よりきめ細かな指導に力を入れていきたいと考える。

Ⅱ　授業について

授業についても、すべての項目で高い結果である。５．の授業は楽しいか、６．の授業が分かるかという質問に対しては、２７名中２５名が、とても楽しい、楽しい、よくわかる、わかると答えている。また、７．の授業中の発言や、８．聞くことについても、２７名中２４名がとてもよい、もしくはよいという評価ではあるが、３名は発表することや聞くことに課題をもっている現状である。個に応じた指導方法の工夫・改善に今まで以上に努め、基礎・基本を確実に定着させることに取り組んでいきたい。さらに、「体験的な学習」や「言語活動を重視した学習」を意識した授業改善を行うことで、「わかる」・「できる」といった学習場面が多くなるようにしたいと考える。９．の宿題への取組も、ほとんどの児童が一生懸命に取り組んでいると回答している。これからも児童の実態に即した家庭学習の一層の推進を図りたい。

Ⅲ　基本的な生活について

基本的な生活についても、すべての項目で高い評価である。１２．当番や係・委員会活動、１３．清掃活動の項目は特に評価が高く、自分の仕事に責任を持って取り組んでいると回答している。また、１０．のあいさつ、１１．の時間を守る、１２．のきまりや約束事についても、多くの児童がよく守れている、守れていると回答している。一方、数名の児童があまり守れていないと回答している。これからも、児童会活動や学級活動において、集団の目標やきまりを設定し、相互に協力し合ってよりよい人間関係を築き、充実した学校生活が実現できるよう集団活動を進めていきたい。

Ⅳ　家での生活

家庭での生活についても、どの項目も高い評価である。１８．家庭学習については、他と比較すると評価が低めである。学力向上には、家庭学習の習慣化が大切であることを、さらに自覚させていきたい。そのためにも、宿題は不可欠であり、継続して指導していきたいと考える。また、宿題以外の家庭学習においても、家庭と連携し、協力をお願いしていきたい。１９．２０．の携帯、スマホに関する質問に対しては、キッズ携帯も含めてではあるが、約４割１１名の児童が持っていると回答している。家でのルールの決め方や使い方についても情報提供を増やしていきたいと考える。

■＜これからの重点課題＞

①本校の利点を生かした基礎的・基本的な学習指導や表現・コミュニケーション能力の育成（英会話科の活動）を視野に入れ、豊かな学校生活の推進をはかる。

児童アンケートの結果から、「授業が楽しい」（評価３．４）、「授業がわかる」（評価３．４）という答えが非常に多く、高い評価であった。校内研究のテーマ「生き生きと自己表現ができる児童の育成～コミュニケーション能力を高めるための英会話科授業の実践～」を中心に、児童一人ひとりに対する、「きめ細かな指導」や「コミュニケーション能力の育成」を図ってきた成果と考えられる。

今後も、少人数教育という本校の利点を生かし、今以上に個々の児童のニーズを把握し、それに沿った学習指導の方法を工夫して進めることで、より一層、基礎的・基本的な学習内容の定着をはかっていきたい。

また、これまで同様、児童一人ひとりとコミュニケーションを図り、正しい児童理解や共感的理解に努めることで、児童との良好な関係を築き、豊かな学校生活の推進を図っていきたい。

②「芦安郷育」を中心とした、豊かな体験活動の充実・展開をより推進し、地域や家庭との連携をさらに深めていく。

教職員アンケートの「Ｖ．学校の特色ある取組」においても、すべての項目で高い評価であった。小中９年間を見通した英会話教育の推進や、ユネスコクール加盟校として、自然体験やＥＳＤへの取り組みを意識した「芦安郷育プログラム」を中

心に、豊かな学習・体験活動が進められていることがうかがえる。

これからも、学校教育目標を見据え、児童の実態を分析し、しっかりとした総括をする中で、芦安小学校の学校デザインを特色づけている「芦安郷育」の推進をはかっていく。一方で、「芦安郷育プログラム」については、学校行事の精選を図りながら、学習プログラムを組み、柔軟に教育課程に位置づけていく。小中９年間で芦安のよさを認識し、芦安を語り、他に発信できるグローバルな児童生徒を育成するため、これまでの実践（財産）を継続するとともに、英会話科中心に新たな展開を目指す積極的な提案・チャレンジを推進する。また、これからも地域の人々とふれ合ったりすることで豊かな感性や実践力を、より一層はぐくんでいきたい。

さらには、家庭との連携もより一層深め、家庭学習についても、家庭での子供との会話の中で話題にしてもらうよう保護者に働きかけたいと考える。今後も、学校だよりや学年だよりなどで学校の取組を保護者や地域に知ってもらうようにしていきたいと考える。